

今号のわだい

- 【1面】 幹部・看護師集会in鳥羽
- 【2面】 川嶋みどりさん・記念講演
- 【3面】 特別報告、参加者インタビュー
- 【4面】 大募集! オススメの「平和、

全厚労ニュース

全 国 労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

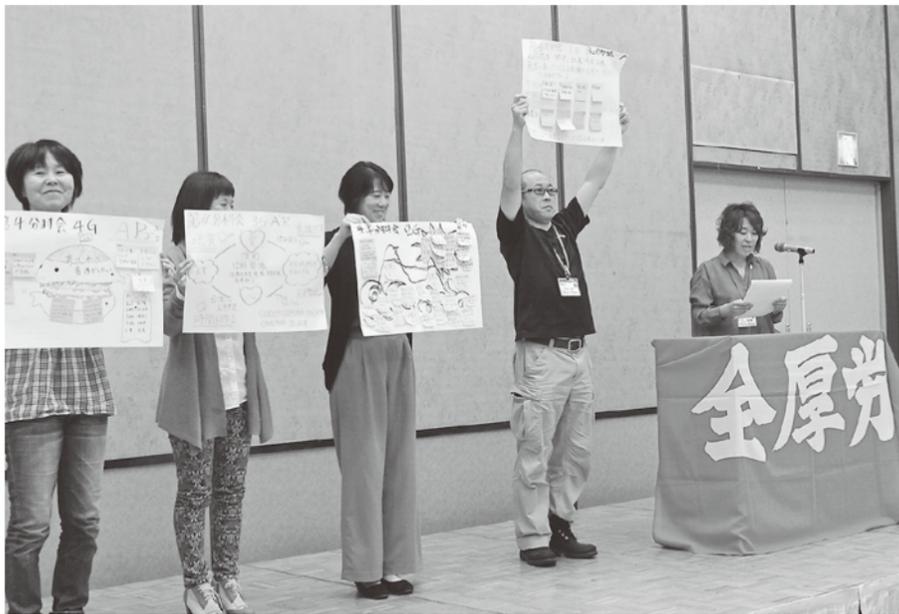
私らしい働き方、生き方を目指して!

第30回幹部・看護師集会in鳥羽

10月7〜8日、全厚労は三重県鳥羽市の鳥羽シーサイドホテルにて「第30回幹部・看護師集会」を開催し、16県142名が集まりました。今集会のテーマである、「私らしく働き、私らしく生きるために!」、自分の意見や思いを出し合って交流しました。

今の看護現場は、医療の高度化、患者の重度化などの中で、医療安全を最優先に機械化・電子化管理やマニュアル重視の状況になっています。本来、「ベッドサイドケアの充実」「患者に寄り添った質の高い看護」を目指して7対1看護

が導入されたはずなのに、むしろ事務仕事が増えて患者の側にいけなくなっています。仕事が増える一方で休み希望も通らず、ゆとりをなくしていく生活。ワークライフバランスの名の下の色んな勤務形態の提案や議論



血液型でグループを分けた第4分散会の報告

その後は年代別に振り分けた分散会と初心者分科会に分かれ、少人数でのグループワークを中心に分散会毎にそれぞれ工夫を凝らしたテーマ設定や「ファシリテーション」の技術を取り入れた運営で、参加者の生の意見を引き出す工夫がなされました。

看護現場を変えるためには、現場の声を現場だけでなく社会へと広げていくことが必要です。日本医労連はこの秋、深刻な看護現場の状況を世間に伝えるために「看護・介護黒書」の取り組みを進めています。全厚労は集会でも声を集め、第一次分として提出しました。また新しい「夜勤改善・増員署名」は、与野党が賛同可能な請願項目に改められて取り組みを開始しています。ぜひ多くの組合員みなさんが「黒書」や署名の取り組みを進めて下さるよう呼びかけます。



各分散会のユニークな報告を聞く参加者

参加者の声

記念講演

時代の流れで合理化がすすみ、心がおいていかれている現場。改めて、私たちの手の必要性を、理解と実感する事ができました。(埼玉)

●多忙な業務とインシデントやアクシデントに注意する毎日で本来の看護というものを忘れていたような気がしました。初心に戻って看護していかなくてはと思いました。(三重)

第1分散会

他病院、他県の現状を知ること、同じ悩み、違う悩みを知ることができたこと。日頃の悩みを話すことでストレス発散になったと思います。(秋田)

第2分散会

色々な県、病院の現状を知ること、意見を聞くことで、自分たちが今からできる対策を考えさせられた。自分の部署

第3分散会

色々な県の人と生身の話ができて良かった。Nsはなんでも屋になっているので、NsでなくてもできることはNs以外にしよう。それをすることにより、本来の仕事ができる。あきらめず要求していく。(広島)

第4分散会

同じ年代、血液型で話し合います「楽しかった」。工夫をこらしていただき、オプザーバーさんありがとうございました。比較的好まれた職場であることを実感しました。が、もっともっと一人ひとりの看護師がやりたい看護ができる様に、今の環境のなか前向きでがんばっていききたいと思えます。(富山)

第5分散会

雇用条件について55歳から賃

初心者分科会

色々な方の話がきけ、話し合うことができて良かったです。県が違っても同じなんだと思いました。現場に戻って自分のできることからしていきたいです。(秋田)

NS世

国の政策を変えていかなければ増員、離職防止に繋がっていかない。この集会で学んだことを活かして、多くの看護師に伝え、組合の仲間と共に活動していこうと再認識した。(福島)

TPP批准させない!

共同集会に8千人

10月15日、TPPに反対する様々な団体・個人が集まった「TPPを批准させない!全国共同行動」が主催する集会が、東京・芝公園で開催され、全国から約8千人(主催者発表)が集まりました。

ステージでは野党や各地・各界の代表からTPPの本質や取り組みが発言・報告されました。生活の党改め「自由党」の山本太郎氏は、かつて自民党が「ウソつかない。TPP断固反対・ブレない」と主張、稲田防衛大臣が「TPPパスの終着駅は、日本文明の墓場」と発言していたことに触れ、「グローバル大企業が栄えて、民滅ぶ」TPPは断固阻止しようと言いました。集会後は銀座に向けてパレードを行いました。

記念講演

看護の本質に迫る ケアの喜びと看護師の信念を

記念講演の講師は、赤十字看護大学名誉教授の川嶋みどり先生です。「今日の流れを食い止めないといけない、流れは看護師が作ったものではないが、看護師がその流れに乗るのではなく、その流れに抗して流れを元に戻さなければ看護そのものがなくなってしまう」このような思いからテーマを「逆に抗し本来の看護の流れを取りもどそうー確かな未来を創るために」とし、看護師の現状や、本来の看護の在り方についてお話し頂きました。



川嶋みどり先生

看護以外の業務が山積み

先生は、看護師で一番忙しいのは「書くこと」ときっぱり。病院調査のデータを示し、特に入院時のアセスメントシートが実働7時間で1人の新入院患者さんに2時間半から3時間かかっていると指摘。入浴できそうもない患者さんに入浴のアセスメントシートを書かせたり、転倒しそうな患者さんに転倒・転落アセスメントシートを書かせたりと、起こりそうもないことを書かせている事を無駄と一喝されました。看護必要度も一人でひとり看護必要度を書き、記録に照らし合わせる作業に追われている。こんな事をしていたら看護をする時間が無

いのは当たり前。医療経営と効率化の名のもとに、どれだけ看護を捨てなければならなかったかと訴えられました。このような流れに抗していかねばいけない。看護は本来楽しいものであって、ケアの喜びを持ち、確固とした看護師の信念を持ち続けて欲しいと呼びかけられました。

人間らしさよりも安全・経営

安全優先で失ったものは「人間の尊厳」と断言、バーコードによる本人確認は人間を商品のように扱い患者さんに失礼であること。また患者の行動や要求を「危ないから」の一言でかたづけしてしまい、生活行動援助の軽視や放棄になってしまっていること述べられました。患者の行動を物理的・言語的に抑制することで、苦痛緩和の看護を何もしないでクリアしてしまっている。患者の人間らしさを守り、

看護心を表現する手を

医者だけではなく、看護師も患者に触れなくなった現代の看護について、本来看護の「手」は有用な手であり、生活諸行動の支援は全部手で行う事で、患者の喜びや悲しみを受け取って分かち合うものだと言われました。看護師の手の有用

性を自分で自覚し発揮させ、これを専門的に使うと、どんなにかめつ面な患者さんでも口がほぐれ心が開かれていく。お湯で体を拭いたり、温めたり、さすったりする看護は、今の高度医療から見たら遅れていると思うかもしれないが、実はこれこそ高度医療なのだ。患者さんに苦痛は与えない、苦しませない、気持ちよく病気を癒やし、症状を緩和していく。極端に言うところの患者さんの6割は看護師の手で癒やすことができると思っていると話されました。そして、気持ちの良い看護は副交感神経を優位にする。副交感神経が優位になると消化器が活発に動き

食欲が出る。看護はそういう力を持っている。それだけではなく副交感神経が優位になると、ナチュラルキラー細胞が活性化して免疫力がアップする。これがナチュラルゲルルの言っている自然の回復過程を整えることなのだ。だから医薬品を使わない、薬に頼らず医療機械に頼らず、看護師の手と身体ツール全体を使って患者さんを治したり、癒やしたり、食欲を引き出した。患者さんの6割は看護師の手で癒やすことができると思っていると話されました。そして、気持ちの良い看護は副交感神経を優位にする。副交感神経が優位になると消化器が活発に動き

知は愛の母

私たちは、どんなことにしろ、そのものの意味を知らなければ、それを大切にしたり愛したりすることはできない。現実を理解しなければ、それを愛し、そこに働きかけていく人間の歴代の受け継ぎ手として、今日生きている喜びや感動を味わうこともできない。

レオナルド・ダビンチの言葉にふれて 宮本百合子 (1940) -若い娘の論理より
看護の直面している現実と、ここに至る道のりに思いを馳せて、これから看護が歩き続ける道を切り開くために今を生き、看護を愛するあなたに伝えたい!

文中の四角で囲った文字を「看護」という文字に置き換えて考えるー講演資料より

連帯の力で働き続けられる職場へ 一人ひとりが声を上げ職場環境の改善を

集会では年代別に5つの分散会と初心者分科会を行いました。どの会もさらにグループ化し少人数で発言しやすく、有意義な交流となりました。

自分から出来ること、話しあいで見つけた

第1分散会

テーマを「Good&Bad 討論会」として、今の職業に就いて仕事やプライベートでのグッド(良い)面、バッド(悪い)面を出し合いました。各グループ様々な意見が出され、グッドな面では「患者さんにありがとうと言われる」「自分の体調管理ができる」「給料がいい」「医療職として社会的信頼がある」など。バッドな面では「有休・長期休暇がとれない」「人員が少なく勤務調整が大変」「職種間・上下関係がうまくいかない」などが出されました。

時間外請求できる環境作りと団結を

第2分散会

テーマは、「時間外労働とライフスタイルのバランスについて」です。話し合われた内容は非常に色濃く、全てをお伝えしたいのですが、限りがあるので要点を絞ってお伝えします。

最も多かった意見は「時間外をしても請求しにくい」ということでした。時間外をしても請求する風習がなく、時間外労働の常習化が進んでいるようです。時間外をしないように早朝出勤し「時間前着手」している病院もありました。それでも時間外をするため、早朝出勤・超過勤務で、1日の大半を仕事で占めることがわかりました。時間外にならないよう業務改善を試みるも「人手不足」がネックで、どうしても超過勤務になり、

より良い看護のために 具体的な策を

第3分散会

川嶋みどり先生の講演を聞いて、それぞれが感じたことや思ったことを述べてもらい、メンバーが現在抱えている問題点の共有を各グループで行いました。問題点の抽出と共有を行い、共通で抱える問題点をどう解決していくかを話し合いました。

特に形式などを設けず、自由な雰囲気メンバーそれぞれが自身の問題を話し、どのグループも看護師以外の職種しながら話し合えたと思えます。

多忙な業務に疲弊し、離職に繋がっています。有休もとりづらく、結局自分の時間は確保できないという現状でした。時間外労働の超過分だけ自身のライフスタイルを侵食してしまっています。

問題を解決するには、まずは「時間外請求をする」そして「時間外請求をしやすい環境をつくる」ということでした。環境づくりにには労働組合が介入し、皆で団結していく必要があります。時間外請求をして人手不足であることをアピールし、人員補充を繰り返して必要がありました。

特別報告

秋田・看護職場の声あつめる

秋厚労では看護師を対象に「私もひとこと言いたい」として、「休みについて・夜勤について・その他」の三つの質問でアンケートをおこなった。

休みについての設問では「夏休み1・5日は少ない」という意見があがった。夏休みが1日半では帰省や家族旅行にしても日数や時間がとれず、せめて3日は欲しいという意見が多かった。他にも有休や誕生日有休がもらえていないという声も



秋田・阿部裕貴さん

誕生日有休は団体交渉で有休の取りやすい環境を訴えた際に、会側から「有休はせめて誕生日にはとりましよう」と発せられ、勝ち取った権利。しかし事務職では誕生日有休の取得率0%といった状況も。また7対1取得のために休みづらくなったとの意見もあった。夜勤についての設問では、人手が少ないため一人当たりの夜勤回数が多く今月だけでなく来月も同様の回数となると「きついので人手が欲しい」という意見があがった。その他の設問では58歳以上の定期昇給なし、一時金7割支給の不利さがあげられた。

「私もひとこと言いたい」の声は605通集まった。看護師だけでもこれほど集まった声をもとに、要求の的を絞り「人を増やす」ということに重点をおき交渉をおこな

った。会側は「募集はかけているが集まらない」との回答。ならば「夏休みを3日間に」と交渉した。結果として、夏休み3日

新潟・Q&Aをつかって時間外請求へ

新厚労では「定時退社を基本に！」を目標に活動を続け、今年度は労働基準監督署と懇談をおこなった。監督署からは「医療現場では看護記録や退院サマリー等、業務であるにも関わらず時間外労働として請求されていない実態がある」と指摘を受けた。これを受け、時間外労働「超勤」についてQ&Aハンドブックを作成した。超勤請求の対象や、組合員から多く寄せられた疑問等に監督署の見解を基に答えたもので、折りたたんで白衣のポケットに入るサイズとした。Q&Aは全組合員に配布し、超勤請求を行なっても認められなかった際に正当性を示す指針となり、不払い残業改善への足がかりとした。

Q&A配布後、超勤請求に対する意識が変わったか

は取れなかったが、今後でも要求し続けることが重要。看護師の生の声を団交にもついでいき、改善できるようにこれからも続けていきたい。

が多少増えた一方で「請求していない」も昨年より増えている現状は重く受け止める必要がある。超勤申請はすることによって、業務の多忙さ、職員数・配置人数の不足の実証、実働に対する正当な賃金の支給、業務改善の検討ペースとなり、交渉の土台とすることができると期待している。超勤請求に対する賃金の支給は離職防止や人員確保にもつながる。これからはQ&Aを活用し、サービスマン改善に向け活動を続けていきたい。



新潟・柳幸子さん

2日目は、上述の感想や共有した問題をさらに具体的に行動レベルまで掘り下げる作業を各グループで行いました。川嶋先生が講演で挙げた「清拭タオルの問題はもちらん、看護の効率化をどこに向けた視点であるかを明確にし、また、より良い看護を提

供するためにはしっかりと身体を休めることが必要で、有休を代表とした休みの取り方・あり方も改善が必要との声が出ていました。

喜んでもらえる看護が出来ているか」を問い、出来ない原因と改善策を話し合いました。O型グループは、川嶋先生から提起された「看護の原点」と「看護の手」をキーワードに話し合いました。「原点」と「手」が「夫婦岩」のようにしっかりと繋がって、荒波に流されていかないように、「危機感を持って」、看護の現場だけでなく、「戦争や平和」「社会保障」の問題を含めてものを言っていくことの大切さが話し合われました。AB型(+AO)グループでは、「寄り添う看護がしたい」とのテーマで話し合いました。

「看護の原点」を取り戻そう

第4分散会

40代後半の参加者で、「血液型」でグループ分けを行いました。A型のグループは、職員・患者・家族の信頼関係を中心に据えて、愛や心をもつて言葉やお互いの気持ちを大切にしていくこと。B型(+O)グループは、「患者に

経験を活かし働き続けられる職場に

第5分散会

50歳代という、女性の心身も取り巻く環境も大きく変化している年代の働き方を取り

り上げました。「50の恵みグループ」と命名したことも、年齢や経験を重ねてきた世代の看護師であるからこそ、効率性では敵わなくても、30数年間の腕と視点と母親的な癒しで、看護もスタッフ教育もできるはずと、前向きにとらえることができたように思います。



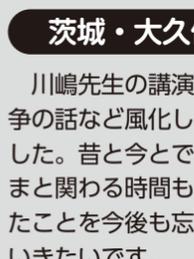
参加者インタビュー

「幹部・看護師集会」に初参加された若い看護師さんと、当日お誕生日だったベテラン看護師さんに講演や分科会についての感想を聞いてみました。



香川・中條仁美さん

川嶋先生の講演を聞いて、機械頼りになって手や五感をつかった看護が時間や業務に追われて出来なくなっているのを感じました。また、戦争で看護師にも召集令状が来たことなど、知らなかったのが衝撃的でした。大変なことを経験されてきた人達の思いが積み重なって今があるんだなと思います。



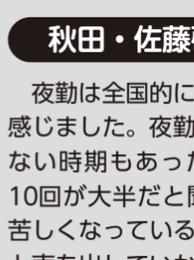
茨城・大久保綾さん

川嶋先生の講演を始めて聞いて、戦争の話など風化しつつあるなと感じました。昔と今では、看護師が患者さまと関わる時間も少ない。講演で聞いたことを今後も忘れずに仕事を続けていきたいです。



静岡・鈴木綾乃さん

グループワークで自分の仕事の良い所・悪い所を話し合いました。人員増などすぐには出来ない事もあるけど、声を出すことが大切。全国で集まって他の県の人と話す機会があると、制度や福利厚生の違いなどが分かり、初めて参加しましたが面白かったです。



秋田・佐藤啓子さん

夜勤は全国的に厳しくなっていると感じました。夜勤専従なんて考えられない時期もあったし、今は夜勤9回、10回が大半だと聞いてかなり現場が苦しくなっていると感じたので、もっと声を出していかなければと思いました。良い看護をしたいという思いと、患者さんのためになにかしたいという看護師本来の姿が、職場づくりに繋がることが改めて感じさせられました。看護師の働きがいがあるってこそその夜勤制限や労働条件になっていくので、もっとそこを大事にしたい。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第114回は北海道と愛知にお願いしました。



北海道 下保誠史さん

北厚労が2016年度の重点課題と位置づけている「人事制度：成長可能な人事制度の構築に向けた現制度の検証と協議の継続」に向けて精力的に取り組んでいる下保（かほ）誠史（放射線技師）労働条件対策部長を紹介します。北海道厚生連入会は2002年、札幌厚生病院→遠軽厚生病院→札幌厚生病院と珍しい転勤歴の持ち主ですが、古巣札幌病院に戻って3年になり、今まさに新規購入のMRIの稼働に向けて職場でも奮闘中です。一年に一度は奥様と休みを調整し、奥様とお子さん（ピカピカの1年生の男の子）が大好きなTDLへの家族旅行や、お子さんが病気の時は奥様と協力しながら子育てでも奮闘中です。労働条件対策部長として重責を果たすべく「人事制度」について組合員への周知と理解を深めるための学習会の講師や、外部セミナーへの参加など昨年からの精力的な日々を過ごしてきましたが、これからもとても忙しい日々が続きます。。。

愛知県からは、愛厚労更生支部で書記長一年目の小林之将（ゆきまさ）さんを紹介します。小林之将さんは、安城更生病院の施設課で事務職員として勤務しております。仕事はとても真面目ですが、ONとOFFの切り替えが上手く、野球・ゴルフ・釣り・お酒と様々な趣味を持っております。また院内で一番の「声と器の大きさの持ち主」として有名であり、仕事だけでなくプライベートでも頼れる兄貴分として皆から愛される存在です。これからも職場が過ごしやすい場所となるよう、仕事と組合活動に努めていただけることを一同期待しております。



愛知 小林之将さん

- 当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。（8月号の答え：ジューウコヤ）
- 当選者（読者の声掲載者含む）10名様に図書（クオ）カードを差し上げます
- ヨコのカギ
- 1 電話の呼びかけ言葉
 - 4 動物の性質や血すじ。……のいい犬
 - 7 千里の……も1歩から
 - 8 無口ではない人。とんだ……をしました
 - 10 聞いて極楽見て……
 - 12 日光の華厳の……
 - 13 鳥居の下を通る道
 - 15 幼な友達、……馬の友
 - 16 結婚50年目は……婚式
 - 17 テニス・ピンポン・バドミントンの道具
 - 19 災い。水……。公……
 - 20 九死一生、……の生還
 - 22 屋外にある風呂
 - 25 ……の他人。……恥
 - 26 魚の表面に付いている
 - 27 自分の名を広める行為
- 24 23 21 19 18 16 15 14 11 9 6 5 4 3 2 1
- タテのカギ
- 1 幼児の手のような葉
 - 11月15日のお宮参り
 - 海水は……からい
 - 建築良材にも使われる
 - ニレ科の落葉高木
 - 寒い時は……料理
 - 人の心を引きつける力
 - 親社会の仕事に請け負ってします
 - ……章。……一等
 - マイカーで旅行
 - 七五三の子が手に持つ
 - 11・23は……感謝の日
 - ……夜にちょうちん
 - ……一徹。……おやじ
 - チャンス。絶好の……
 - 同時多発の自爆……
 - ウサギウマとも言う

ザククロスワード

出題▶モロズミ勝

答

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

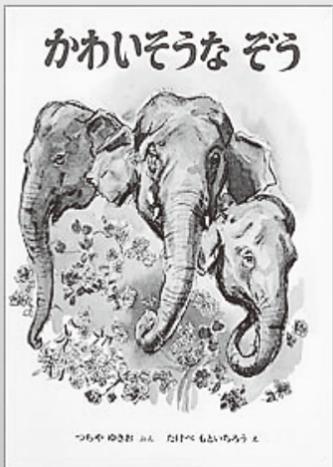
【問題】A～Eを並べてできる言葉は？

大募集 『平和を感じる〇〇』

ニュース新年号にむけ“平和を感じる”本、映画、音楽、スポット…などなど皆さんの「平和を感じる〇〇」の紹介を募集します。

全厚労ニュース係まで
おハガキ・ケータイ投稿お待ちしております

例えば…「絵本『かわいそうなぞう』がおすすめです。戦争中の動物園の実際のお話で、東京・上野動物園が舞台。子どもの頃、絵本を読んだあとに動物たちの慰霊碑まで連れていってもらい、子どもながらに『戦争について』考えました」…など。投稿者にはもれなくプレゼントあり。



スマホからのクロスワードパズルと読者の声への応募も募集しています。



読者の声

台風が猛威をふるい、各地に被害をもたらしました。土砂崩れで通勤路が一方通行になるなど、身近な被害を感じると、自然に生かされている現実を改めて感じます。日頃薄れてしまっている自然への感謝をもう一度意識したいと思えます。

——自然は大きな災害をもたらしますが、大いなる恵みで生きる糧も与えてくれます。この二面性を素直に受け入れ、自然に感謝しつつ謙虚な気持ちで防災ではなく減災の理念で生かされる関係。古来日本人が歩んできたあり方を

台風大雨等の被害が大きかった今年の夏の北海道にも、秋の気配がただよってきました。（北海道）

——最近めっきり寒くなりましたね。私もお腹を出して寝ていたら風邪気味です。北海道も被害が大きいと聞きます。お互い温かく過ごして行きたいですね。（MK）

朝晩が涼しくなり、外で夜空を眺める機会が増えてきました。虫の音をききながら、十五夜をみたいと思えます。（静岡）

——だいたい涼しくなってきましたね。我が家では掛け布団に毛

再考しなければならぬのでは？と感じています。（YM）

布を追加しました。毎朝の通勤や夜の帰宅が涼しく、快適で気持ちいいです。十五夜ではお団子は食べましたか？私はいはついでに過ぎてしまいました。（OK）

最近老眼が進み老眼鏡の世話になることが多くなりました。自分の身に起こらないと実感できないものだとつくづく思います。目盛りや数字など見間違わないよう注意！

——私も長野県民ですが、山形までは遠いイメージでした。近いですが、でも長野県は日本の真ん中なので意外といろんな所に行きやすい素敵な県ですよね！！！！（SN）

先日山形県にある加茂水族館へ行ってきました。長野から高速で4時間半。意外と近いことに驚きました。クラゲが有名な水族館で友人がインスタグラムでUPしていたのを見て行きたくなったのです。今は情報があふれている時代。急遽決めた旅行でしたが、羽黒山や山寺も行って山形を満喫しました。クラゲきれいでした☆（長野）